

岡崎市議会議長 様

支出番号 4

会派名

代表者名

三浦 康宏



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

### 政務活動旅行報告書

令和2年 3月 27日提出

活動年月日	令和 1年 10月30日 (水) ~ 令和 1年 11月1日 (金)	
氏名	三浦 康宏	
用務先 及び 内 容	1	用務先 高知県高知市
	10月30日	内 容 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 1日目
	2	用務先 高知県高知市
	10月31日	内 容 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 2日目
	3	用務先 徳島県鳴門市
	11月1日	内 容 徳島ヴォルティスとの連携事業について
備考		



# 政務活動視察報告書

報告者：三浦 康宏

視 察 日	令和1年10月30日(水)・31日(木)
視 察 内 容	第14回全国市議会議長会研究フォーラム
視 察 者	三浦康宏

## <高知市 第14回全国市議会議長会 研究フォーラムの概要>

テーマ：「議会活性化のための船中八策」  
会場：高知市  
高知ちばさんセンター

### 第1日目

- 13:00 開会式
- 13:20 基調講演  
東京工業大学リベラルアーツ  
研究教育院教授 [REDACTED]
- 14:40 パネルディスカッション  
コーディネーター  
朝日新聞論説委員 [REDACTED]
- パネリスト  
市町村職員中央研修所 [REDACTED] [REDACTED]  
株式会社コラボボ代表取締役 横田響子  
高松丸亀町商店街振興組合 [REDACTED] [REDACTED]  
高知市議会議長 田鍋剛



### 第2日目

- 9:00 課題討議  
コーディネーター 朝日新聞論説委員 [REDACTED]  
パネリスト 上越市議会議員 滝沢一成  
鎌倉市議会議長 久坂くにえ  
周南市議会議長 小林雄二

11:00 閉会式



## <高知市 第14回全国市議会議長会研究フォーラム 基調講演>



「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」  
まず政治の仕事は大きく①お金と②価値の2つだとし、縦軸の上を「リスクの社会化」下を「リスクの個人化」、横軸の左を「リベラル」(寛容) 右を「パターンル」(父権的)とする「政治のマトリクス」を用い、現代社会の政党、自民党の各政権、希望の党の失敗などをこれに当てはめ解説した。

そして次に「ラディカルデモクラシーとポピュリズム」の視点から、過去の世界の歴史も交え2017年10月の立憲民主党フィーバーや2019年のれいわ新選組フィーバーを解説。ラディカルデモクラシーを①熟議デモクラシー(市民の積極的、直接的参加型)、②闘技デモクラシー(境界線を引き明確な対立軸を主張)の2つに分け、枝野氏を①、山本氏を②とし説明した。

そこから「新自由主義」(官から民へ)と「二大政党制」(2つは似て来る)から投票率の低下に繋がる過程を解説し、先の両氏を中心とした当時の日本の動きを分析。その後「保守」についてフランス革命を例に挙げながら持論を展開し、「落としどころを探り、みんなで議論しながら何かの政治決定をなしていくことこそが保守政治というもの王道的な政治の在り方」だと主張。そしてリベラルと保守というものが重要なタッグを組んだ時に、日本の中にもう一つ重要な選択肢が生まれるとまとめた。

<高知市 第14回全国市議会議長会研究フォーラム パネルディスカッション  
・課題討議>

「議会活性化のための船中八策」

パネルディスカッションでは、市町村共同の研修機関であり議員研修も行っている市町村アカデミーの■■■■氏、現在地方制度調査会に参加しているコラボラボの代表であり女性起業家を紹介する等の活動を行う■■■■氏、全国から注目を集める中心市街地の活性化に取り組む高松丸亀町商店街振興組合理事長の■■■■氏、開催地の議長である田鍋氏の4名からそれぞれ「議会をより良くするため」の意見を伺い、テーマに沿ってまとめることはせず、ヒントやきっかけを紡ぐ事を主題とし進められた。



そして2日目の課題討議では、滝沢上越市議会議員、鎌倉市議会議長、小林周南市議会議長3氏からのそれぞれの視点からの意見を踏まえ、前日のパネルディスカッションから引き続きコーディネーターを務める■■■■氏の先導のもと議論を深め、最終的に「議会活性化のための船中八策」として、①行政監視機能を向上させる、②次世代を見据えた議論を行う、③データを踏まえた議論を行う、④女性・若者等、議会構成での多様性の確保、⑤地方自治法96条第1、2項を活かし議会側から仕掛けて行く、⑥労働法制を見直す、⑦情報公開を徹底する、⑧議員間討議を増やす、の8つとした。



[感想・岡崎市への反映]

■■■■氏の基調講演は、自民党員として大変勉強になった。歴史的な政治知識に根ざした見地から現代の日本の政局を捉えた独自の解説は分かりやすく、また共感出来るものだった。またコーディネーターの■■■■氏により2日間に亘り「議会活性化のための船中八策」のテーマのもと進められた報告、意見交換も、各パネリスト様々な経験や考え方を踏まえた見解を伺うことができ、参考となるものも多く、最後は大きく8つにまとまった「八策」も今後活かすべき重要なポイントだと腑に落ちた。

# 政務活動視察報告書

報告者：三浦 康宏

視 察 日	令和1年11月1日（金）
視 察 内 容	徳島ヴォルティスとの連携事業について
視 察 者	三浦康宏

## <鳴門市の概要>

鳴門市は四国の東北端に位置し、鳴門海峡をはさんで淡路島を望む四国の東玄関。全国的に知られている「鳴門の渦潮」をはじめ、四国遍路うあ大塚国際美術館、鳴門市ドイツ館、大谷焼などの数多くの観光資源と、海産物・農産物など数多い地域特産品を抱える観光都市。「鳴門海峡」の名称は、海峡付近で内外両海の水位差が最大になる大潮時に、海峡の激しい潮流が生じ、遠雷のようなひびきをたてることから「なると」と付けられたと言われる。

面積：135.66k㎡ 人口：59,101人



## <鳴門市 徳島ヴォルティスとの連携事業の経緯>

現在の徳島県知事である飯泉嘉門知事が徳島知事選に立候補する際に掲げた選挙公約が「徳島にJリーグクラブを創る」と言うもので、県知事となった2003年に「徳島Jリーグ推進協議会」を発足し、当時JFLに所属していた大塚製菓サッカー部を母体として「徳島ヴォルティス」を立ち上げた。徳島ヴォルティスには、徳島県が1億円を出資し、鳴門市と徳島市がそれぞれ1千万円ずつ出資している。その後2004年9月に「徳島ヴォルティス株式会社」が運営会社として設立された。

## <鳴門市 徳島ヴォルティスとの連携事業の概要と特色>

徳島県にぎわいづくり課を事務局とする、鳴門市、徳島市、美馬市、吉野川市、松茂町、北島町、藍住町、板野町の4市4町で構成される「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」では、ホームゲームを開催する際に、ホームタウンの1自治体をクローズアップし、そのまちの特産品PRや市民の無料招待等を行うホームタウンデーを実施している。また年に1回、ホームタウンをはじめ、県内全域を対象とした「徳島県民デー」を2014年から開催している。



徳島ヴォルティスのホームスタジアム「鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム」（徳島県鳴門総合運動公園）のある鳴門市では市単独でも「ヴォルティス支援室」を設けるなど積極的な関わりを図り、ホームゲームの際、1試合平均5,000人が定期的に訪れるその集客力を活かし、市内のまち歩きを推進するなど、地域活性化に繋げる施策を展開している。またホームゲームを活用した特産品PRだけでなく、アウェイゲームを活用した観光PRなども実施し、原付バイクのオリジナルナンバープレートや地元商

店街への応援タペストリーの装飾など、市民・クラブ・行政が一体となった応援機運の醸成を図っている。その結果もあり、2005年にJリーグに参入した当初は3,200人程だったホームゲーム1試合平均観客数も、15年目となる2019シーズンには5,700人を超え、中でもJ1に昇格した2014シーズンは1試合平均8,884人を記録した。

市は他にも、応援機運の醸成を図る為に、転入し新たに市民となった方にホームゲームの無料招待をしたり、地域貢献活動と合わせ小学校や幼稚園へのヴォルティスグッズの移動展示やコーチが訪問しての巡回指導、市内約50か所で行われている「いきいきサロン」訪問、また様々な特典を受けられる「スポーツパス」の発行やマンホール応援デザインプレート、スタジアムまでの道を「ヴォルティスロード」と名付け、看板・幟の設置を行う等、街の賑わい創出にも力を注いでいる。

今後も更なる周知・啓発活動を図り、徳島ヴォルティスへの興味・関心を高め、観客数を増やすことにより、地域活性化に繋げて行く意向だが、スポンサー権益との関係等により、クラブとの連携事業が上手く進まないことが多く、クラブとの意思疎通を深めながら事業を推進して行く必要があるとのこと。



#### [感想・岡崎市への反映]

徳島ヴォルティスは2019シーズン、J2最高位タイの4位でJ1参入プレーオフへ進出、プレーオフも決定戦まで駒を進めたものの残念ながら湘南に引き分け、レギュレーションにより昇格を逃した。しかし鳴門市はプレーオフ進出を記念した横断幕を市役所本庁舎2階渡り廊下に設置し、横断幕の両サイドには市民から募集した寄せ書き風の応援メッセージも一緒に掲げられ、市民が大いにその戦いに関心を持ち、盛り上がった様子を感じられた。その陰には鳴門市のチーム設立当初からのバックアップ、また行政としての事業施策の積み重ねが少なからず影響している事を実感した。本市と「マルヤス岡崎」の関係について、大いに参考としたい。